

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	商 業	科 目	ビジネス経済	学 年	3	類 型	商業科
単位数	3	教科書	ビジネス経済		出版社	実教出版	
副教材	ビジネス経済 問題集						

学習の目標	ミクロ経済理論及びマクロ経済理論の基礎的な知識を習得させ、経済の仕組みや概念について理解していきます。 また、経済事象を主体的に考察する能力と態度を育てます。
授業の概要	需要や供給などのミクロ経済理論及び景気循環や経済政策などのマクロ経済理論の基礎的な内容を学習します。

	学期	単 元	教 材	学 習 内 容	評価の観点				
					①	②	③	④	
年 間 学 習 計 画	1 学 期	第1編 市場と経済		1 資源配分のしくみ 2 現代の市場とビジネス	○		○		
	2 学 期	第2編 各種取引の記帳		1 需要の概念と需要の変化 2 供給の概念と供給の変化		○ ○		○ ○	
	3 学 期	第3編 価格決定と市場の役割		1 価格決定のしくみ 2 市場の役割と課題		○ ○	○		◎
	4 学 期	第4編 経済成長と景気循環		1 GDP 2 景気循環 3 物価と実質GDP 4 経済成長 5 景気変動とインフレーション	○	○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○	
	3 学 期	第5編 経済政策		1 財 政 2 金 融	○		○	◎ ○	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
① 関心・意欲・態度	② 思考・判断	③ 技能	④ 知識・理解
現在の経済状態について関心をもち、その展望について自らの考えを整理する意欲や態度が身に付いているか。 ・課題等への取り組み ・授業への積極性	学習した知識や見識を活用し、経済が抱える諸問題を適切に判断して、その解決について創造する能力が身に付いているか。 ・課題プリント	経済に関するさまざまな情報や資料を各メディアから収集し、そのなかから適切なものを選択して、主体的に活用する能力が身に付いているか。 ・課題プリント	済に関する基礎的・基本的な知識と見識を身に付け、それを現実の諸問題に適用できる水準まで理解を深めているか。 ・定期考査 ・小テスト
評価の方法			
4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめごとに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価します。			

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	商 業	科 目	ビ ジ ネ ス 実 務	学 年	3	類 型	商業科
単位数	2	教科書	ビジネス実務		出版社	東京法令出版	
副教材							

学習の目標	1 企業の組織と仕事、職業人としての心構え、コミュニケーション、ビジネスマナー、情報化とオフィス実務、税の申告と納付を学習し、それらの知識や技術を活用してビジネスの諸活動を円滑におこなう能力と態度を育みます。 2 計算の基礎、珠算、暗算を学習し、それらの知識と技術を活用してビジネスの諸活動を円滑におこなう能力と姿勢を育みます。 3 英語を用いた基本的なビジネス会話とビジネス文書の作成を学習し、それらの知識や技術を活用してビジネスの諸活動を円滑におこなう能力と姿勢を育みます。
授業の概要	多面的にビジネスについての基本的知識を学び、実務の世界に入ったときに役立つノウハウを習得します。

	学期	単 元 名 等	学 習 内 容	評価の観点				
				①	②	③	④	
年間 学 習 計 画	1 学 期	第1章 オフィス実務	第1節 企業の組織と仕事	○				
			第2節 職業人としての心構え	○				
			第3節 コミュニケーションとビジネスマナー		○			
			第4節 情報化とオフィス実務			○		
			第5節 税の申告と納付	○				
			ビジネス文書実務検定試験				◎	
	2 学 期	第3章 ビジネスと珠算	第1節 計算の基礎	○				
			第2節 珠算		○			
			第3節 暗算		○			
			珠算・電卓実務検定試験				◎	
			ビジネス文書実務検定試験				◎	
			第2章 ビジネス英語		○			
	3 学 期	家庭学習期間	第1節 国際化とコミュニケーション		○			
			第2節 ビジネスの会話		○			
			第3節 ビジネスの文書	○				

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
- ビジネスにおけるコミュニケーションの意義や、業務の合理化に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。 - 出席状況 - 授業態度	- ビジネスの様々な場面における適切なコミュニケーションの方法やオフィスにおける合理的な業務方法を、基礎的な知識をもとに自ら考え工夫するとともに、その成果を的確に表現することができる。 - 課題の提出状況	社会人として望ましい心構えやビジネスマナーを身につけ、具体的なビジネスの場面において適切にコミュニケーションをとることができ、合理的な業務を実践することができる。	- ビジネスにおけるコミュニケーションの意義や適切な方法、オフィス業務について基礎的・基本的な知識を身につけ、ビジネスコミュニケーションやオフィス業務の重要性を理解している。 - 検定模擬問題
評価の方法			
4つの観点に基づき、各学期ごとに評価し、100点法で評価します。また、学年末の評価は、検定試験の成績と各学期の評価を平均し総合的に評価します。			

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	商 業	科 目	プログラミング	学 年	3	類 型	商業科
単位数	2	教科書	最新プログラミング	出版社	実教出版株式会社		
副教材	学習と検定 全商情報処理検定テキスト 2級 プログラミング部門						

学習の目標	1 コンピュータを使ったデータ処理の仕組みについて理解させる。 2 プログラミングに関する知識と技術を習得させる。 3 体験的学習を通して創造力や論理的な思考力を育成する。 4 ビジネスの諸活動において、情報を合理的に処理しコンピュータを効果的に活用する能力と態度を育む。
授業の概要	・プログラミングに関する基礎的な内容を学習し、マクロ言語に関する技術と基本的な内容を学習する。

	学期	単元名等	学習内容	評価の観点				
				①	②	③	④	
年間学習計画	1学期	第1章 コンピュータとプログラミング 1節 ビジネスと情報処理システム 第2章 プログラミング基礎 1節 プログラミングの手順 2節 データの入力と演算 3節 アルゴリズムの表現技法 4節 条件判定とくりかえし 5節 オブジェクト指向の考え方	1. 情報とコンピュータ 2. ビジネスとコンピュータ 3. 情報処理システム 4. システムの利用例 5. コンピュータネットワーク社会 1. Java言語とプログラミング 2. プログラムの作成と実行 1. データの出力 2. 変数 3. データの入力 4. いろいろな演算 1. 流れ図 2. 基本制御構造 1. 判定 2. 選択 3. 一定回数の繰り返し 4. 条件による繰り返し 1. クラスの考え方 2. クラスの定義とオブジェクトの生成 3. オブジェクト思考の3大要素 演習問題（2級）	○				
	2学期	第3章 プログラミングの応用 1節 メソッドの利用 2節 配列の利用 3節 例外処理とストリーム マクロ言語	演習問題（2級） 1. クラスとメソッド 2. mainメソッド 3. メソッド 4. メソッドの使い方 1. 配列の考え方 2. 配列による集計 3. 配列の探索 4. 配列による順位付け 5. 配列による並び替え 6. 二次元配列の考え方 1. 例外処理 2. ファイルの入出力 マクロ言語の活用 1. マクロ言語の導入 2. マクロ言語の基礎 3. マクロ言語の応用 4. トレーニング 演習問題（1級）	○		○		
	3学期		演習問題（1級）	○		○		
							◎	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
コンピュータを使った情報処理の仕組みとプログラミングについて関心を持ち、ビジネスの諸活動によって生じた情報を活用することを目指して主体的に取り組もうとするとともに、プログラムを活用しデータを合理的に処理し、コンピュータを効果的に活用する実践的な態度を身に付けている。 ・出席状況・授業態度	ビジネスの諸活動によって生じた情報を主体的に活用することを目指して、プログラムを利用してデータを加工するための思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	プログラミングに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動によって生じた情報の活用を目的としてコンピュータの活用を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	コンピュータを使った情報処理の仕組みとプログラミングに関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、プログラムの意義や役割について理解している。 ・定期考査 ・検定試験
評価の方法			
定期考査（年2回）に加え、検定試験（9月：2級、1月1級）などを総合的に評価します。また、平常の授業態度や課題の提出状況・内容、積極性等も評価の対象になります。			

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	商 業	科 目	経済活動と法	学 年	3	類 型	商業科
単位数	3	教科書	経済活動と法 新訂版		出版社	東京法令出版	
副教材	経済活動と法 新訂版ワークブック						

学習の目標	1 経法に関する基礎的・基本的な知識を習得します。 2 経法の意義や役割について理解し、将来の経営に携わる際の様々な問題に対応する能力を身に付けます。 3 自らが学習の主役となり、主体的に考え能動的に学ぶ力を養います。
授業の概要	商業に関する法の意義や役割について正しく学び、ビジネスの諸活動を遂行するために必要な民法や商法等の基礎的な知識を習得し、学習した法律を経済活動に広く結びつけていきます。加えて、グループ活動や課題解決型の手法を授業に取り入れ、身につけた知識を活用しながら新たな問題を発見し、問題を解決する力を養います。 2学期以降は演習を多く取り入れ、検定試験に対応できる力を養います。

	学期	単 元 名 等	学 習 内 容	評価の観点				
				①	②	③	④	
年間学習計画	1学期	1章 経済社会と法	1 社会生活と法 2 法の分類 3 法が存在形式 4 法の適用と解釈	○				
		2章 権利・義務と財産権	1 権利・義務とその主体 2 物権と債権 (中間考査) 3 知的財産権	○		○		
		3章 契約と債権	1 契約と意思表示 2 売買契約と賃貸借契約 (期末考査)	○	◎		◎	
	2学期	4章 会社に関する法	3 債権の管理と回収 4 手形と小切手の利用 (中間考査) 1 会社の種類 2 株式会社の特徴 3 株式会社の機関とその責任 4 資金調達 5 組織再編 (期末考査)	○		○		◎
		5章 企業の責任と法	1 コンプライアンス 2 紛争の予防と解決 3 消費者保護 4 雇用	○	○	◎		
	3学期	6章 経済環境の変化と法 検定試験 家庭学習	1 経済環境の変化と法 模擬問題 発展問題	○	○		◎	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
法の知識、法的思考が生活上必須のことであることに関心を持ち、意欲的に学習しようとする。 ・出席状況 ・授業態度 ・課題の提出状況	ある事象の解釈について、また条文についての生成過程や立法の趣旨を論理的に思考し、主体的に考える力を身につけることができる。 ・グループ活動 ・検定模擬問題	自らの意見を考えたり、他人の意見を聞いたりしながら、協働を通して問題解決に努めることができる。 ・資料作成 ・ワークシート作成	法規や新聞などの具体的な事象を取り上げて、知識や理解を深めながら社会で応用できる力を養う。 ・定期考査 ・検定試験 ・感想文等
評価の方法			
定期考査に加え、提出物（課題、ノート、感想文等）、小テスト（検定模擬問題等）、検定試験の成績などを総合的に評価します。また、平常の授業態度や課題解決学習での取組の姿勢・内容、発表の態度等も評価の対象になります。			

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教科	商業	科目	広告と販売促進	学年	3	類型	
単位数	2	教科書	広告と販売促進	出版社		実教出版	
副教材							

学習の目標	1. 成熟した現代市場において広告と販売促進が果たす役割とその意義を理解します。 2. 広告や販売促進に関する知識と技術を体験的に習得します。 3. マーケティングにおける企業と消費者間のコミュニケーション活動の果たす意義や役割を理解します。 4. 広告や販売促進など販売に関連する活動を主体的、創造的に行う能力と態度を育てます。
授業の概要	広告や販売促進などに関する知識と技術を習得し、企業と消費者間のコミュニケーション活動の意義と役割を理解し、ビジネス実習・現場実習等を通じて必要な能力と態度を身に付ける授業を行います。

	学期	単 元	教 材	学 習 内 容	評価の観点				
					①	②	③	④	
年間学習計画	1 学期	第1章 販売促進		1 販売促進の内容 2 消費行動の理解 3 販売促進の戦略と具体的活動	○	○			
		第2章 広告	フォトショップエレメント イラストレーター	1 広告の概要 2 広告計画の手順と内容 ビジネス実習	○		○	○	
					○	○	◎		
	2 学期	第3章 広報		1 広報の概要 2 広報の具体的活動 3 効果的な広報		○ ○	○ ○ ◎	○	
		第4章 店舗の立地と設計		1 店舗の立地 2 店舗の設計 3 店舗の棚割と陳列		○ ○ ○	○ ○ ○		
		第5章 販売員活動		1 販売員活動の概要 2 販売員活動の方法	○	○	○	○	
3 学期		第6章 時代に 応じた販売促進		1 新しい販売促進 2 販売促進の規制 3 販売促進の課題	○	○ ○ ○	○	○	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
① 関心・意欲・態度	② 思考・判断	③ 技能	④ 知識・理解
広告や販売促進などに関する知識と技術について関心をもち、それらを習得するために意欲的に取り組んでいるか。 ・課題等への取り組み ・授業への積極性	広告や販売促進など販売に関する活動における諸問題を解決するために、思考できる。 ・課題プリント	広告と販売促進に関する資料をさまざまなメディアから収集し、そのなかから適切なものを選択して、主体的に活用する能力が身に付いているか。 ・課題プリント	広告と販売促進に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、それを現代社会の諸問題を考察できる水準まで理解を深めているか。 ・定期考査 ・小テスト
評価の方法			
4つの観点に基づき、各学期に定期考査までの学習のまとめごとに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。			

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	商 業	科 目	財務会計Ⅱ	学 年	3	類 型	商業科
単位数	2	教科書	財務会計Ⅱ	出版社	実教出版株式会社		
副教材	使える財務会計Ⅱ 問題集						

学習の目標	「簿記」。「財務会計Ⅰ」法海を基礎として、「資産会計、負債・純資産会計など財務に関する知識と技術を習得させ、経済社会において会計責任を果たすことの重要性について理解させるとともに、会計に関する法規や基準の変更に対応し、会計情報を利害関係者に提供する能力と態度及び提供された会計情報をビジネスの諸活動に活用する能力と態度を育てる」ことを目標としている。
授業の概要	指導目標を効率よく達成できるように、まとまりのある学習ができるように配慮している。検定試験に対応した学習が図れるように工夫し、前半は財務省票分析を、後半は財務会計を進める。なお、8月に行われる上級簿記対策研修会にも参加し、他校生と切磋琢磨しながら学ぶ意欲を身に付ける。

	学期	単 元 名 等	学 習 内 容	評価の観点				
				①	②	③	④	
年 間 学 習 計 画	1 学 期	第1編 総論 財務会計の基本概念と会計基準	第1章 財務会計の基本概念	○				
			第2章 資産負債7°ローチと収益費用7°ローチ					
			第3章 会計基準の国際的統合					
			第4章 資産会計					
		第2編 各論[1] 財務会計の実際	【中間考査】					
			第5章 負債会計					
			第6章 純資産会計					
			第7章 リース会計					
			第8章 税効果会計					
	2 学 期	第3編 各論[2] 企業活動の展開と財務会計	第9章 外貨換算会計	○	○	○		
			第10章 キャッシュ・フロー計算書					
			第11章 企業結合会計					
			【中間考査】					
	3 学 期	第4編 各論[3] 企業結合の会計	第12章 連結財務諸表の作成(その1)					
			第13章 連結財務諸表の作成(その2)					
			【期末考査】					
			第14章 財務諸表の活用					
	3 学 期	第6編 監査と 職業会計人	第15章 監査と職業会計人	○				
			【学年末考査】					

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
財務会計および監査についても関心を持ち、その理論と技術の習得を目指して意欲的に取り組むと共に、会計情報を提供し、活用しようとする態度を身に付けようとしているかどうか。 ・出席状況 ・授業態度 ・課題の提出状況	新しい会計基準や財務会計の基本概念について、自ら思考を深め、高度な知識と技術を活用して適切に判断できる能力を身に付けているかどうか。 また、会計情報の提供および活用という形で適切に表現することができるか。 ・グループ活動 ・検定模擬問題	新しい会計基準に関する会計処理の技術を身に付け、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に提供・活用することができるか。 ・検定試験（模擬問題）	新しい会計基準やその処理に関する知識を身に付け、財務会計の基本概念や監査について理解している。 ・定期考査 ・検定試験
評価の方法			
定期考査に加え、提出物（問題集、検定模擬問題等）、検定試験の成績などを総合的に評価します。また、平常の授業態度や発表の姿勢・内容、積極性等も評価の対象になります。			

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	商 業	科 目	総合実践	学 年	3	類 型	商業科
単位数	3	教科書	総合実践の手引き		出版社	大洲高校商業科	
副教材							

学習の目標	1 商業活動を実践的に行う事によって、それに関する商業諸科目で学習した知識・技能・態度を総合的に組み立てながら、ビジネスの諸活動を主体的かつ合理的に遂行する能力と態度を身に付けます。 2 ビジネスの諸活動の実践的な経験を経て各自の個性に適した職業を選び、社会に役立つための人間となれるよう、対応の仕方・敬語の使い方など接遇マナーを積極的に身に付け、職業人としての資質を養います。
授業の概要	・ 教室内に模擬の商業組織を設け、売買業の企業活動を中心に学習し、その中で互いに協力し合い、商業社会の基本的な活動と企業総合間の有機的な関連を理解していく授業を行います。 ・ 社会の変化に対応するために、コンピュータを利用する実践システムについて理解し、効率的な運用方法を身に付けるようにします。

	学期	単 元 名 等	学 習 内 容	評価の観点				
				①	②	③	④	
年間学習計画	1 学期	オリエンテーション 演習Ⅰ（同時同業方式）	1 学習の心構えと職場のマナー 2 朝礼の指導・事前準備 3 パソコン・メールの設定 1 開始記入・小口現金の設定・当座勘定の開設・火災保険契約 2 仕入取引・販売取引 見積依頼書/見積書・注文書/注文請書・納品書/商品受取書 領収書・商品有高帳の記入・販売計画表・仕入計画表 3 保険会社との取引 火災保険契約・運送保険契約 4 倉庫会社との取引 寄託申込書・出庫報告書 【期末考査】	○				
	2 学期	電話対応の基本 演習Ⅱ（自由取引方式）	5 運送会社との取引 市内トラック運賃の支払い、貨物発送手続き 6 各月末処理 経費の支払い・T/Bの作成 1 電話の受け方 2 電話での正しい言葉遣い 3 模擬演習 1 取引相手の決定 (演習Ⅰで学習した内容をそれぞれの商店が自由に行う) 【期末考査】	○		○		
	3 学期	決算	棚卸表の作成 精算表の作成 決算整理仕訳 貸借対照表・損益計算書の作成	○		○		

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・ 分担された業務について、指示や情報を積極的に受け止めようとしているか。 ・ 授業で説明を受けた書類作成方法により、丁寧に記入できているか。 ・ 出席状況 ・ 授業態度	・ 業務に従事するにあたり、自分の役割を認識し、どのような処理が筆か考え、判断することができるか。 ・ 校訓唱和・校歌斉唱で大きな声が出ているか。 ・ グループ活動	・ 会計諸帳簿が、正確に記帳されているか。販売促進活動が積極的に行われているか。 ・ 資料作成	・ 取引の流れを理解しているか。 ・ 社内における課題について理解しまとめることができるか。 ・ 定期考査 ・ 検定試験
評価の方法			
定期考査（年2回）に加え、提出物（諸帳簿・営業日誌）などを総合的に評価します。また、平常の授業態度や発表の姿勢・内容、積極性なども評価の対象になります。			

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	商 業	科 目	課題研究（資格取得）	学 年	3	類 型	商業科
単位数	2	教科書		出版社			
副教材	全商検定試験問題集（簿記、ビジネス文書、珠算・電卓、情報処理、商業経済）						

学習の目標	ビジネスに関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、より専門的な知識と技術の進化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や、自発的・総合的な学習態度を育てます。
授業の概要	これまでに学習した知識・理解の習得を確認しながら、上級資格取得を目指します。

	学 期	単 元	教 材	学 習 内 容	評価の観点				
					①	②	③	④	
年 間 学 習 計 画	1 学 期	(1) 目標設定 (2) 形式別演習 (3) 検定試験	各種全商検定問題集	・自らの課題を振り返り、適切な目標設定を行う。 ・6月9日（日）日商簿記検定試験 ・6月16日（日）全商珠算・電卓実務検定試験 ・6月23日（日）全商簿記実務検定試験 ・6月30日（日）全商ビジネス文書実務検定試験 ・1学期の反省	○			○	
	2 学 期			・適切な目標設定を行う。 ・9月22日（日）全商情報処理検定試験 ・11月10日（日）全商珠算・電卓実務検定試験 ・11月17日（日）日商簿記検定試験 ・11月24日（日）全商ビジネス文書実務検定試験 ・2学期の反省	○		○	◎	
	3 学 期			・適切な目標設定を行う。 ・1月19日（日）全商情報処理検定試験 ・1月26日（日）全商簿記実務検定試験 ・2月2日（日）全商商業経済検定試験 ・2月23日（日）日商簿記検定試験 ・1年間の反省	○		○	◎	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
① 関心・意欲・態度	② 思考・判断	③ 技能	④ 知識・理解
・学習活動への参加の態度 ・課題等の提出状況 ・出席状況	・主体的・積極的に問題解決にむけて取り組んでいる。 ・自ら取り組んだ課題を的確に分かりやすく表現することができる。	・各分野の基礎的・基本的な知識 ・技能を習得しているか。	・確認テスト ・検定模擬問題
評価の方法			
4つの観点総合的に評価し 100 点法で評価します。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価します。			

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	商 業	科 目	課題研究（商品開発）	学 年	3	類	商業科
単位数	2	教科書		出版社			
副教材							

学習の目標	自らが課題を設定し、その解決を図る一連の研究活動のなかで、問題解決能力や創造的学習態度を育てるとともに、その成果を発表する機会を通して、表現力やコミュニケーション能力を育てます。
授業の概要	1 地域の調査を通して、地域の現状や課題を把握し、地域創生に向けた活動を展開します。 2 学校の内外において、実践的・体験的な学習を行います。 3 プレゼンテーションソフトウェアを用いた発表を行います。

	学期	単 元 名 等	学 習 内 容	評価の観点				
				①	②	③	④	
年間学習計画	1 学期	1 ガイダンス 2 市場調査 3 商品開発Ⅰ	- 全国の高等学校における商品開発例について調べる - 大洲市における名産品・産業の確認 - 大洲市役所との連携 - アンケートの実施・分析 - 大洲のいもたきについて - 愛媛県のいもたきの現状 - 地域課題の改善 - 新しいスタイルのいもたきの発案 仮説→企画→実践→検証 - プレゼンテーション	○ ○ ○ ◎ ◎	 ○ ○ ◎	 ○	 ◎	
	2 学期	4 商品開発Ⅱ	- 地元業者との連携 - いもたき会場での調査	○	○	◎	○	
	3 学期	5 成果発表 ・発表 ・評価 ・提言	- プレゼンテーション演習 - 研究報告書と研究発表の総合的評価 - 地元業者と大洲市に提言	○	○	○	◎	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
- 地域の現状や課題を把握し、地域創生に向けた取組について理解しようとしている。 - 主体的な態度で、ワークショップや実習などに参加しようとしている。 - 出席状況 - 授業態度	- 実践的、体験的な活動を通して、課題解決に必要な考察を深めることができている。 - 自らの考えを他者に的確に伝えることができている。 - グループ活動	- 実践的、体験的な活動を通して、課題解決に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができている。 - プレゼンテーション演習 - 実習態度	- 地域の現状や課題について理解を深め、地域創生を担う使命感を持つことができている。 - 提出物（課題、レポート等）
評価の方法			
提出物（課題、レポート等）、プレゼンテーション、などを総合的に評価します。また、平常の授業態度や課題解決学習での取組の姿勢・内容、発表の態度等も評価の対象になります。			

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	商 業	科 目	課題研究（調査研究）	学 年	3	類型	商業科
単位数	2	教科書		出版社			
副教材							

学習の目標	自らが課題を設定し、その解決を図る一連の研究活動のなかで、問題解決能力や創造的学習態度を育てるとともに、その成果を発表する機会を通して、表現力やコミュニケーション能力を育てます。
授業の概要	1 地域の調査を通して、地域の現状や課題を把握し、地域創生に向けた活動を展開します。 2 学校の内外において、実践的・体験的な学習を行います。 3 プレゼンテーションソフトウェアを用いた発表を行います。

	学期	単 元 名 等	学 習 内 容	評価の観点				
				①	②	③	④	
年間 学 習 計 画	1 学 期	1 ガイダンス	・ ツアープランニングの作成 ・ サイクリングツアーの商品化 ・ 地域DMOとの連携	○ ○ ○				
		2 地域経済の現状と課題	・ 地域の現状と課題についての把握 ・ 実践的、体験的活動として、実地調査や取材活動 ・ 観光案内版の調査 ・ 調査→検証→課題を取り入れた調査研究報告書の作成 ・ 地域の課題の改善	◎	○ ○			
		3 中間発表準備	・ 発表資料作成 ・ プレゼンテーション ・ 仮説→企画→実践→検証→課題を取り入れた調査研究報告書の作成		◎	○		◎
	2 学 期	4 地域課題の改善	・ ツアープランの完成 ・ サイクリングツアーの完成 ・ 手書き地図の作成	○	○	◎	○	
	3 学 期	5 成果発表 ・ 発表 ・ 評価 ・ 提言	・ プレゼンテーション演習 ・ 研究報告書と研究発表の総合的評価 ・ 地域DMOと大洲市に提言	○	○	○ ○	◎	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
・ 地域の現状や課題を把握し、地域創生に向けた取組について理解しようとしている。 ・ 主体的な態度で、ワークショップや実習などに参加しようとしている。 ・ 出席状況 ・ 授業態度	・ 実践的、体験的な活動を通して、課題解決に必要な考察を深めることができている。 ・ 自らの考えを他者に的確に伝えることができている。 ・ グループ活動	・ 実践的、体験的な活動を通して、課題解決に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができている。 ・ プレゼンテーション演習 ・ 実習態度	・ 地域の現状や課題について理解を深め、地域創生を担う使命感を持つことができている。 ・ 提出物（課題、レポート等）
評価の方法			
提出物（課題、レポート等）、プレゼンテーション、などを総合的に評価します。また、平常の授業態度や課題解決学習での取組の姿勢・内容、発表の態度等も評価の対象になります。			